



いこいの



森

St. Marianna University
Yokohama Seibu Hospital
Public relations magazine
IKOI NO MORI13
October
2025

大腸内視鏡検査のススメ

内視鏡部 部長 青木 敬則

今年4月に西部病院に着任しました内視鏡部の青木敬則です。今回は大腸内視鏡検査について皆さまにぜひ知っていただきたいことをお話しします。

大腸内視鏡検査は一般的に「大腸カメラ」と言われていますが、皆さまの中には大腸カメラについて色々心配になることがあると思います。たとえば「痛くなるのが心配」「検査を受けるのが恥ずかしい」「お金がかかりそう」「病気が見つかったらどうしよう」「腸の中をきれいにするのが大変そう」などと思ったことはないでしょうか？ また、大腸カメラについて「なぜ検査をしなければならないの?」「どういう場合に検査を受ければいいのか?」といった疑問を持っている方もいらっしゃるのではないかと思います。

① 大腸カメラを受ける理由

私はおもに3つの大切な理由があると考えています。

① 症状がなくても病気が見つかる

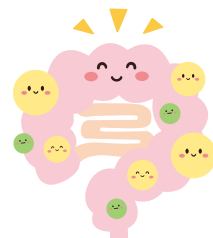
大腸カメラで見つかる病気はたくさんありますが、その中で症状がなく見つかる病気も少なくありません。もちろん大腸がんも例外ではありません。つまり、症状がないから病気がないとは言えないのです。

② 検査と治療が同時にできる

大腸の代表的な検査として、大腸カメラ（大腸内視鏡）、注腸検査、CTコロノグラフィー（3D-CT）、大腸カプセル内視鏡、の4検査が挙げられます。これらの検査の中で、注腸検査、CTコロノグラフィー、大腸カプセル内視鏡は病変を指摘できるものの、切除できないという欠点があります。一方で、大腸カメラは病変が見つかったら、検査中に治療が必要かどうかを判断して切除することが可能です。つまり、検査と治療を兼ねることができるということになります。

③ 大腸がんは早期発見で治せる

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」（全国がん登録）によると、日本人の一番多く見つかるがんが大腸がん（2021年）、大腸がんの死亡数はがんの中で2番目です（2023年）。とても多いことがわかります。また、図1の日本の大腸がん罹患数（患者数）と死亡数の年次推移を見ても、年々増加しています。この結果からも、いかに早くがんを見つけて治療するかが大事なことがよくわかります。では、大腸がんの進行度別に見てみるとど



うでしょうか？ 図2は大腸がんの進行度を示すステージ（病期）分類とステージ別5年生存率を示していますが、ステージの数字が小さい段階であれば5年生存率が高いことがわかります。つまり、大腸がんは早い段階で発見して治療することにより治る可能性が高くなる病気であり、大腸カメラを受けて病気がないことを確認することが大切である、ということが言えます。

図1 日本の大腸がん罹患数と死亡数の年次推移

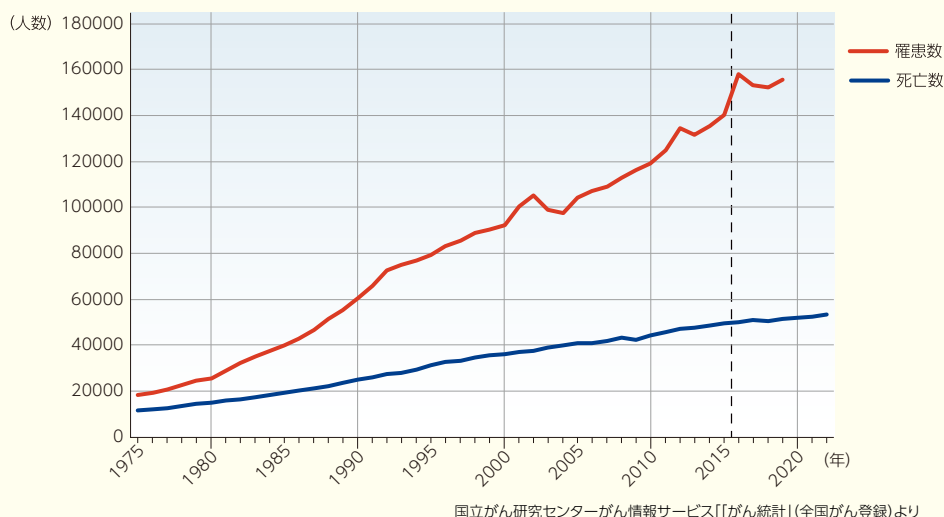
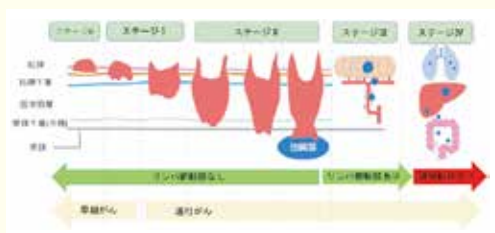


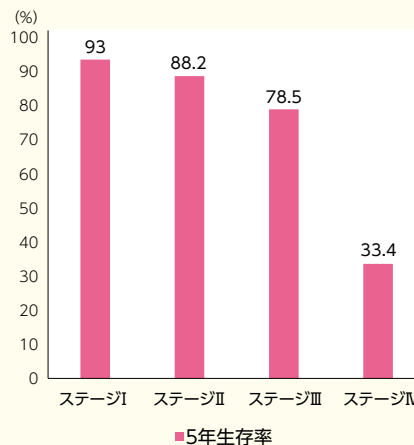
図2 ステージ別大腸がん5年生存率

大腸がんのステージ(病期)分類

ステージ0：がんが粘膜の中にとどまっている
 ステージⅠ：がんが大腸の固有筋層までにとどまり、リンパ節転移がない
 ステージⅡ：がんが大腸の固有筋層の外まで浸潤し、かつリンパ節転移がない
 ステージⅢ：がんの深達度に関わらず、リンパ節転移がある
 ステージⅣ：他の臓器や腹腔内に転移があるもの



国立がん研究センター東病院ホームページより



大腸癌研究会・全国登録(2000～2007年症例)より一部改変

② 大腸カメラを受けた方がよい人（適応）

私は下記の2つのいずれかがある方は大腸カメラを受けた方が良いと考えています。

- 血便・下血、貧血、腹痛・腹部膨満感、便秘・下痢、便が細くなる、残便感などの症状が続く
- 症状はないが、大腸がん検診で異常を指摘された

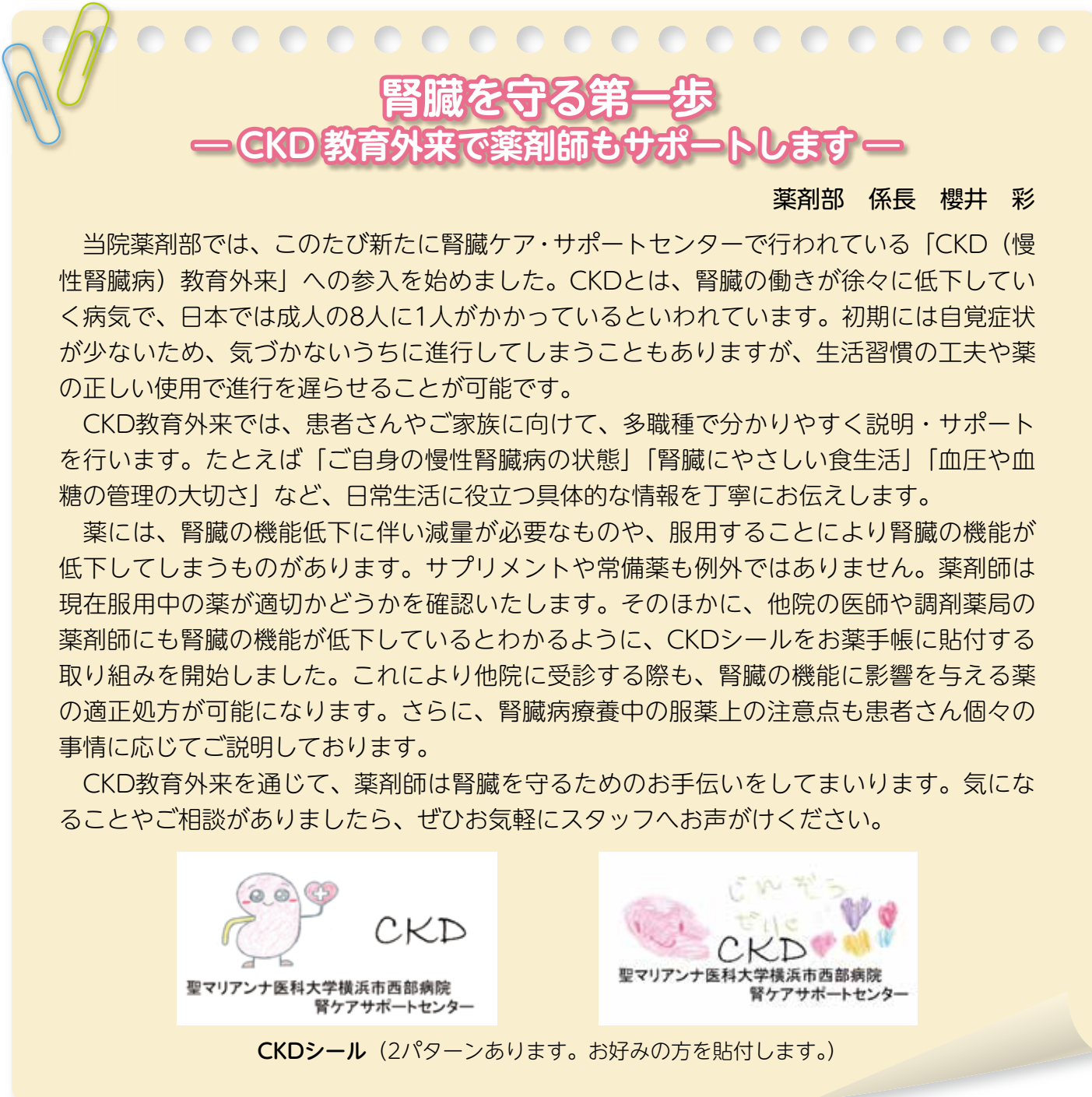
上記症状がある場合に大腸カメラを受けていただくことはもちろんですが、便潜血検査で陽性となった場合もカメラを受けていただくことが望ましいと考えます。便潜血検査とは、便の中に血液が混じっているかどうかを調べる検査であり、主に大腸からの出血の有無を確認するものです。厚生労働省の報告によると、令和3（2021）年度に自治体を実施した大腸がん検診を受けた人で、要精密検査（陽性）となった人の割合は5.44%であり、その中で大腸がんを

断された人の割合は2.85%でした（ただし、精密検査受診率は69.9%）。つまり、便潜血陽性＝大腸がんではありませんが、大腸がんが見つかる人がいることは証明されており、精密検査（特に大腸カメラ）を受けることは大切であると言えます。実際に、日本の対策型大腸がん検診の流れとして、40歳以上の方には便潜血検査（2日法）が推奨され、1日でも陽性となった方は全大腸内視鏡検査（大腸カメラ）が第一選択とされています。

以上、今回は大腸カメラを受ける理由とその適応についてお話ししました。症状があれば迷わず大腸カメラを検討しましょう。症状がなくても40歳を過ぎたら大腸がん検診を受けましょう。検診で異常を指摘された場合にはやっぱり大腸カメラを受けましょう。

検査を受けることは、ご自身とご家族の安心にもつながります。

当院では苦痛の少ない大腸内視鏡検査を心がけております。検査を受けようと考えている方や検査を受けるか迷われている方も、お気軽に当院までご相談ください。



腎臓を守る第一歩 —CKD 教育外来で薬剤師もサポートします—

薬剤部 係長 櫻井 彩

当院薬剤部では、このたび新たに腎臓ケア・サポートセンターで行われている「CKD（慢性腎臓病）教育外来」への参入を始めました。CKDとは、腎臓の働きが徐々に低下していく病気で、日本では成人の8人に1人がかかっているといわれています。初期には自覚症状が少ないため、気づかないうちに進行してしまうこともあります。生活習慣の工夫や薬の正しい使用で進行を遅らせることが可能です。

CKD教育外来では、患者さんやご家族に向けて、多職種で分かりやすく説明・サポートを行います。たとえば「ご自身の慢性腎臓病の状態」「腎臓にやさしい食生活」「血圧や血糖の管理の大切さ」など、日常生活に役立つ具体的な情報を丁寧にお伝えします。

薬には、腎臓の機能低下に伴い減量が必要なものや、服用することにより腎臓の機能が低下してしまうものがあります。サプリメントや常備薬も例外ではありません。薬剤師は現在服用中の薬が適切かどうかを確認いたします。そのほかに、他院の医師や調剤薬局の薬剤師にも腎臓の機能が低下しているとわかるように、CKDシールをお薬手帳に貼付する取り組みを開始しました。これにより他院に受診する際も、腎臓の機能に影響を与える薬の適正処方が可能になります。さらに、腎臓病療養中の服薬上の注意点も患者さん個々の事情に応じてご説明しております。

CKD教育外来を通じて、薬剤師は腎臓を守るためのお手伝いをしてまいります。気になることやご相談がありましたら、ぜひお気軽にスタッフへお声がけください。



CKDシール（2パターンあります。お好みの方を貼付します。）

あなたとあなたの大切な人のための 人生会議を考えてみませんか

腎臓ケア・サポートセンター 副師長 小澤 美津子

人生の最終段階における意思決定について、厚生労働省が策定するガイドラインの中で「医療従事者から適切な情報提供と説明がされたうえで、本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いを踏まえた本人による意思決定を基本とし（中略）、方針を決定することが重要」と述べられています。

この意思決定の過程をACP（アドバンス・ケア・プランニング）といい、日本ではわかりやすく「人生会議」と呼ばれています。

つまり、病気を抱えたあなたの療養と生活を切り離さず医療者とともに“もしも”のときの話をしましょう、ということです。

これは終末期だけのことではありません。自分が歩けなくなったときや家族の他界など、生活環境に変化があったときも含みます。

当院の腎臓ケア・サポートセンターでは、腎臓病患者さんご家族、医師・看護師とで人生会議を行っています。入院時に、急変時の対応をどうするか判断が求められ、ただでさえ混乱している状況の中、答えるのが困難だったという経験をもつ方が、「人生会議は意思疎通が図れるときに自分の人生について話し合えるので、いざというとき、もしものときに備え安心できます。そうして1回決めたから終わりというのではなく、何度繰り返してもよいのですね」とおっしゃっていました。そう、人生会議はご自身の望むことを伝え、話し合うだけではなく、ご自身の大切な人に行う双方の人生会議なのです。

「今、私は病気をしていないから大丈夫」ではありません。ご自身や大切な人が元気なうちに、意思が伝えられるうちに人生会議をしてみませんか？

横浜市から“もしも”のときにどうしたいのか、ご自身の思いを記録して伝えるための「もしも手帳」が交付されています。ホームページで解説されていますのでご参照ください。



←横浜市医療局地域医療課ホームページ



聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
St. Marianna University Yokohama Seibu Hospital

地域医療支援病院

日本医療機能評価機構認定病院

JCEP（卒後臨床研修評価機能）認定病院



〒241-0811 神奈川県横浜市旭区矢指町1197-1

TEL:045-366-1111 (代表)

FAX:045-366-1172

URL: <https://seibu.mrianna-u.ac.jp/>

